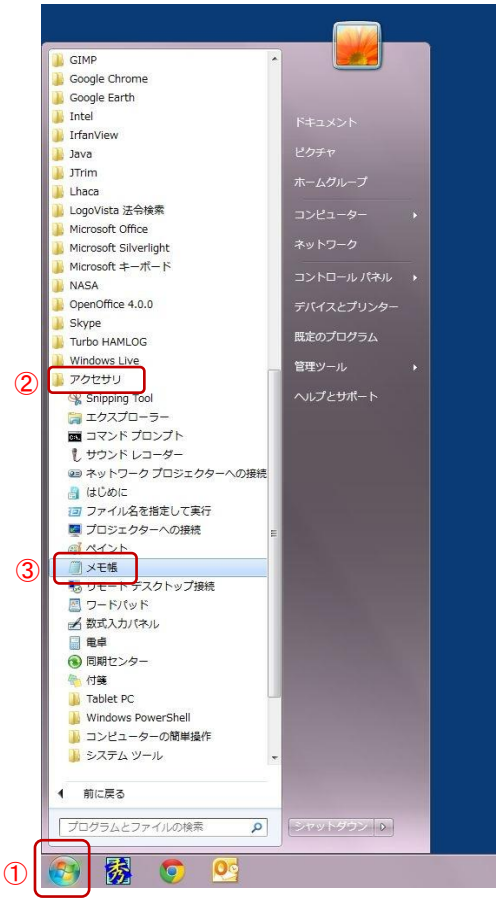
ダウンロードした交信証明印定義ファイルを
QSLカード印刷定義ファイルへ貼り付ける方法

交信証明印の定義ファイルは，そのままでは開けません．一度テキスト・ファイルで開き，修正を加えてからQSLカード印刷定義ファイルの最後部につなげます．以下にその方法を説明します．

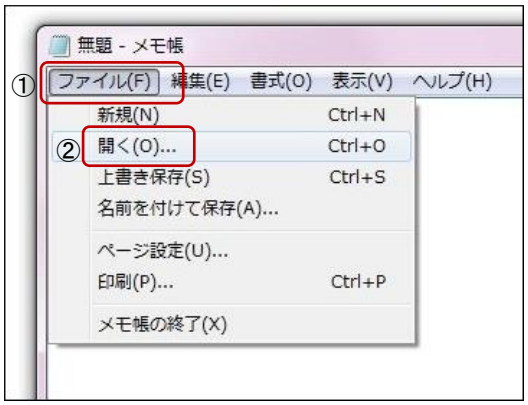
■ メモ帳で交信証明印の定義ファイルを開く

Windows標準の「メモ帳」を使い，交信証明印の定義ファイルをテキスト・ファイルとして開いて編集します．

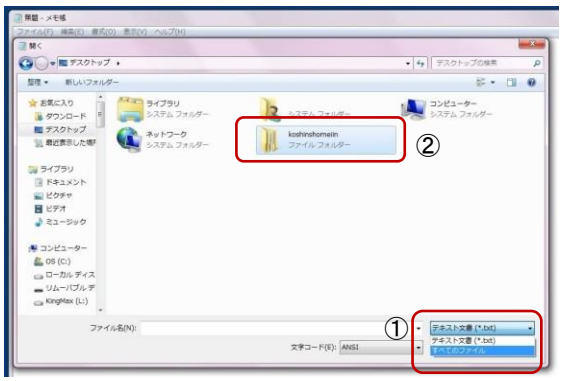
● キーボードの「Windowsキー」もしくは画面最下部のタスクバー左端にある「Windowsボタン」をクリックして，①「スタートメニュー」を出します．「すべてのプログラム」をクリック→②「アクセサリ」をクリック→フォルダが展開されるのでその中の③「メモ帳」をクリックすると，メモ帳が立ち上がります．

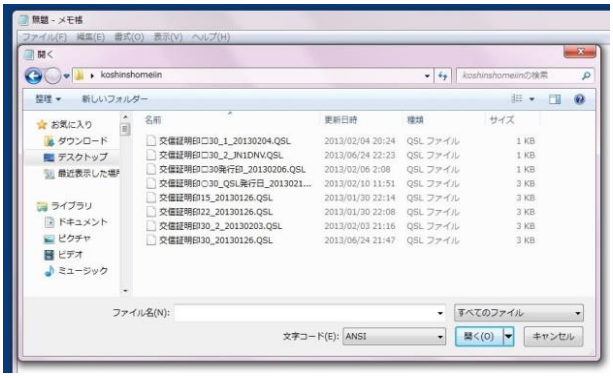


● 立ち上がったメモ帳の①「ファイル」→②「開く」をクリック．

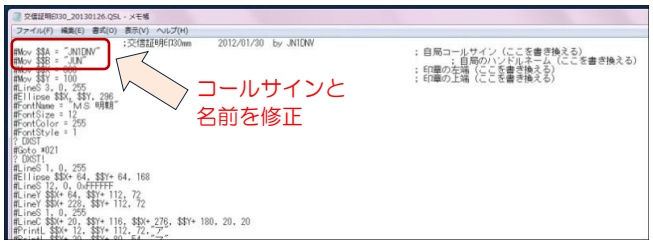


● 右下の①「テキスト文書（*TXT）」をクリック→②「すべてのファイル」をクリック→「koshinshomeiin」フォルダをクリックすると，用意されている交信証明印の一覧が表示されます．





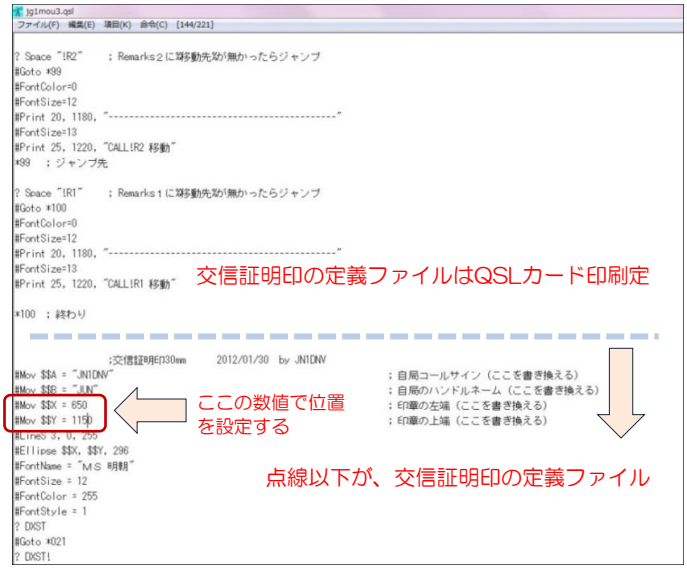
● 表示されているファイルから，使いたい交信証明印の定義ファイルをクリックすると内容が表示されます．交信証明印のサンプルは別紙に用意しているので、そちらを参照して選んでください．開いたファイルを自分のコールサインや名前に書き換えます．書き換えた内容は，名前を付けてテキスト・ファイルのまま保存しておきます．
「koshinshomeiin」のフォルダもしくは，Turbo HAMLOGのあるフォルダに保存しておくとわかりやすいでしょう．



■ 交信証明印の定義ファイルをQSLカード印刷定義ファイルにコピーする

Turbo HAMLOGを立ち上げ，QSLカード印刷に使用するQSLカード印刷定義ファイルを開きます．

● QSLカード印刷定義ファイルの最下部に，先ほど用意した交信証明印の定義ファイルをコピーして貼り付けます．



● 交信証明印を押す位置を左端と上端の値を入力して設定します．
数値の1が0.1mmを表すので，1cm動かしたいときは数値を100変化させます．だいたいの位置を入力し，印刷イメージで交信証明印の位置を確かめながら修正を加えていけばいいでしょう．
ちょうどいい位置に置けたら作業は終了です．

ここで説明した方法以外に，Turbo HAMLOGでQSLカード印刷定義ファイルを開くのと同じようにして，交信証明印の定義ファイルを開く方法もあります．その場合も，修正したファイルは別名で保存しておき，その内容をあらためてQSLカード印刷定義ファイルの最後部につなげます．ご自身のわかりやすい方法をお試しください．

交信証明印サンプル

交信証明印
□30_1_20130204

30mm 角

交信証明印
□30_2_JN1DNV

30mm 角

交信証明印□30発行印
_20130206

30mm 角

交信証明印○30_QSL発行
日_20130210

直径 30mm

直径 15mm

交信証明印15_20141003　（右はDX交信時）

直径 22mm

交信証明印22_20141003　（右はDX交信時）

直径 30mm

交信証明印30_20130126　（右はDX交信時）

直径 30mm

交信証明印30_20141003　（右はDX交信時）